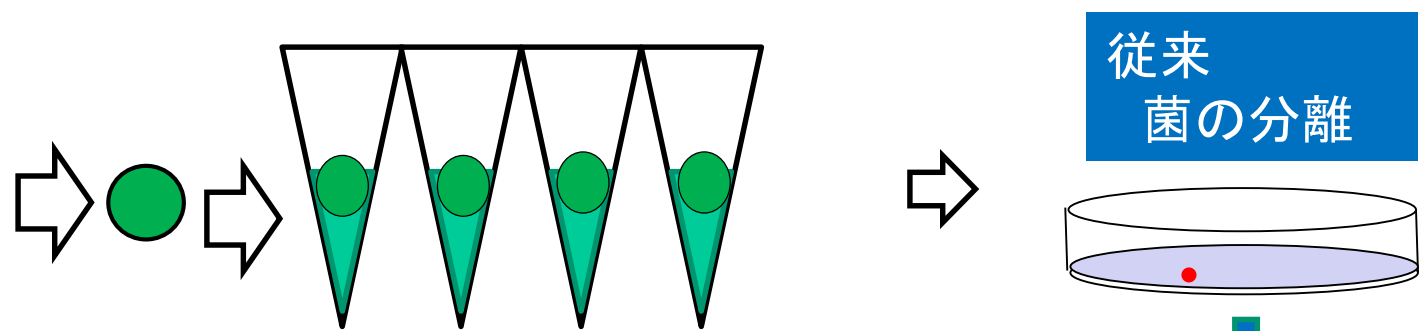


キウイフルーツかいよう病 (Psa3) の迅速診断技術

キウイフルーツかいよう病の遺伝子診断は、これまで5日程度必要であったが、加熱処理を加え新たな酵素を使用することで迅速に診断できる技術を開発した。これにより、これまでかいよう病菌の分離・培養の煩雑な行程が削除され、また、葉以外の枝・根でも迅速な診断が可能となった。

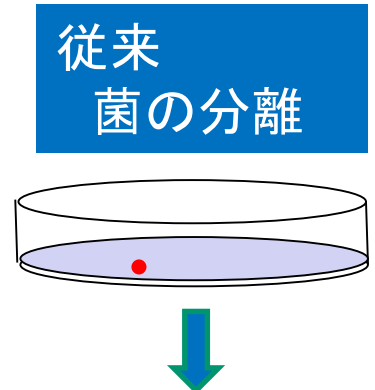


病斑をくり抜く



切片をチューブにいれる
(かいよう病菌が溶液に出てくる)

希釈



PCR診断

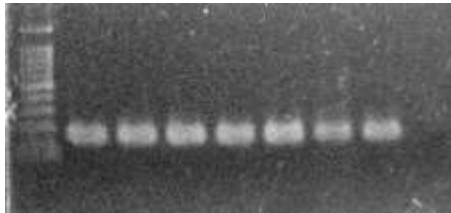


(5日程度必要)

加熱処理(5分)



PCR診断



電気泳動

(1~2日で診断)